

目 次

- 総 会
第 34 回定時総会開催通知 ----- 1
- 学会賞
2010 年度学会賞の決定について ----- 8
- 年 会
第 34 回年会案内 (最終プログラム) ----- 11

頁総数 : 32

総 会

第 34 回定時総会開催通知

下記により、第 34 回日本科学教育学会定時総会を開催いたします。会員各位のご参加をお願いいたします。なお、ご参加されない場合には、同封の委任状にお名前、議案の賛否を記入し、ご捺印の上、50 円切手を貼って、折り返しご投函ください。

記

会員各位

2010 年 8 月 10 日
日本科学教育学会
会長 吉田 淳

日 時 : 2010 年 9 月 11 日 (土) 11:30 ~ 13:00
会 場 : 広島大学 (〒 739-8511 東広島市鏡山一丁目)

提出議案

- | | | |
|---------|------------------------|-----|
| 第 1 号議案 | 2009 年度事業報告及び収支決算書承認の件 | 2 頁 |
| 第 2 号議案 | 2010 年度事業計画及び予算案承認の件 | 5 頁 |
| 第 3 号議案 | 2010-2013 年度役員候補者の承認の件 | 7 頁 |
| 第 4 号議案 | 名誉会員候補者の承認の件 | 7 頁 |

第1号議案（案）

I. 2009年度（自2009年7月1日至2010年6月30日）事業報告書

2009年度に実施した事業は次のとおりである。（事業費6,168千円）

(1) 機関誌等

- 1) 「科学教育研究」第33巻第3号、第4号、第34巻第1号、第2号を刊行し、会員に配布した。
- 2) 「科学教育研究レター」No. 194～198、学会彙報、学会通信を刊行し、会員に配布した。
学会Webサイト (<http://www.jsse.jp/>) を運用した。
メールマガジンを配信した。
- 3) 「年会論文集33」を刊行し、申込者に配布した。

(2) 年会

第33回年会（2009年8月25日（火）～8月26日（水））を同志社女子大学で開催し、研究発表・課題研究発表・シンポジウム・インタラクティブセッション等を行った。

(3) 学術交流等

- 1) アジア等諸外国の科学教育学会との交流の推進について検討を行った。
- 2) 教科「理科」関連学会協議会に参加し、理科教育の発展充実を図った。

(4) 研究会活動：研究会を年6回開催した。

- 第1回：東北支部「子ども達の未来を拓く科学教育」、2009年11月7日（土）、岩手大学
第2回：九州沖縄支部「複数領域をつなぐ科学教育研究と実践」、2009年11月28日（土）、
鹿児島大学
第3回：南関東支部「実社会・実生活との関連を重視した科学教育」、2010年2月20日（土）、
麻布大学
第4回：北陸・甲信越支部「科学教育に関わる教師の指導力向上の方策を探る」、2010年
5月29日（土）、上越教育大学
第5回：中国支部「学習意欲と理解の向上をはかる理数系授業の方法論をさぐる」、2010
年5月29日（土）、山口大学
第6回：東海支部「新時代に対応した科学教育」、2010年6月26日（土）、三重大学

(5) 支部活動：全国10支部の活動を行った。

(6) 学会賞

- 1) 学術賞を贈呈した。
川崎 謙（高知大学教育学部）
業績：科学教育における言語学的相対化と比較科学論の構築
- 2) 論文賞を贈呈した。
鈴木栄幸（茨城大学）、加藤 浩（放送大学）
受賞論文：鈴木栄幸・加藤 浩 社会的ネットワークキングに着目したプレゼンテーション教育手法「マンガ表現法」の提案、科学教育研究、第32巻、第3号、pp.196-215、2008
- 3) 年会発表賞を贈呈した。
縣 秀彦（自然科学研究機構 国立天文台）
対象研究発表：市民とのリサーチ・コミュニケーション『アストロノミー・パブ』の評価

瀬戸崎典夫（九州大学大学院芸術工学府）、森田裕介（早稲田大学人間科学学術院）、竹田 仰（九州大学大学院芸術工学研究院）

対象研究発表：高校生を対象とした VR 教材の効果的な活用場面に関する検討

Ⅱ. 2009 年度（自 2009 年 7 月 1 日至 2010 年 6 月 30 日）収支決算書

収支決算書は、松原静郎、鶴岡義彦監事の会計監査を受け、適正と認められた。

1 一般会計

【収入の部】

科 目	予 算 額	決 算 額	差 額 (決算－予算)
(1) 会費	9,284,500	9,057,000	△ 227,500
正会員会費	8,160,000	8,205,000	45,000
学生会員会費	212,500	203,000	△ 9,500
公共会員会費	20,000	20,000	0
賛助会員会費	135,000	135,000	0
未納分会費	757,000	494,000	△ 263,000
(2) 入会金	100,000	80,000	△ 20,000
(3) 広告料	120,000	120,000	0
(4) 購読料	400,000	728,350	328,350
(5) 著作権料	150,000	402,426	252,426
(6) 雑収入	900,000	2,449,829	1,549,829
(7) 選挙管理費積立取崩し	250,000	250,000	0
(8) 前年度繰越収支差額	5,419,522	5,419,522	0
収入合計	16,624,022	18,507,127	1,883,105

会 費 前 納 分	4,752,000
-----------	-----------

【支出の部】

科 目	予 算 額	決 算 額	差 額 (予算-決算)
(1) 管理費	5,556,125	5,612,963	△ 56,838
役員会議等会議費	170,000	0	170,000
旅費交通費	1,050,000	870,390	179,610
通信運搬費	200,000	158,553	41,447
消耗品費	10,000	0	10,000
印刷費	82,000	65,110	16,890
事務委託費	3,394,125	3,433,500	△ 39,375
I T調査・管理費	473,000	1,006,080	△ 533,080
負担金	95,000	0	95,000
雑費	82,000	79,330	2,670
(2) 事業費	6,290,000	6,168,172	171,828
科学教育研究誌	3,830,000	4,368,691	△ 538,691
レター・学会通信等	310,000	314,899	△ 4,899
年会・学会賞	1,100,000	818,282	281,718
学術交流等	450,000	66,300	383,700
調査・研究	0	0	0
研究会・支部活動推進	650,000	600,000	50,000
(3) 学会活性化積立金	1,000,000	1,000,000	0
(4) 選挙管理費	590,000	609,381	△ 19,381
(5) 予備費	3,137,897	0	3,137,897
支出合計	16,624,022	13,390,516	3,233,506
次年度繰越収支差額		5,116,611	

2 基金・積立金

【基金】 7,176,083

【大塚賞】 1,720,375

【学会活性化積立金】 1,000,273

【役員選挙積立金】 0

第2号議案（案）

I. 2010年度（自2010年7月1日至2011年6月30日）事業計画書

2010年度に実施する事業は次のとおりである。（事業費6,330千円）

(1) 機関誌等

- 1) 「科学教育研究」第34巻第3号、第4号、第35巻第1号、第2号を刊行し、会員に配布する。
- 2) 「科学教育研究レター」No. 199～203、学会彙報、学会通信を刊行・配布する。
学会Webサイト (<http://www.jsse.jp/>) を運用する。
メールマガジンを配信する。
- 3) 「年会論文集34」を刊行し、申込者に配布する。

(2) 年会

第34回年会（2010年9月10日（土）～9月11日（日））を広島大学で開催し、研究発表・課題研究発表・シンポジウム・インタラクティブセッション等を行う。

(3) 学術交流等

- 1) アジア等諸外国の科学教育学会との交流の推進について検討を行う。
- 2) 教科「理科」関連学会協議会に参加し、理科教育の発展充実を図る。

(4) 支部活動

- 1) 全国10支部の活動を推進する。
- 2) 研究会を、以下の6支部において開催する。
東北支部、南関東支部、東海支部、北陸甲信越支部、中国支部、九州沖縄支部

(5) 学会賞

- 1) 大塚賞を贈呈する。
中山和彦（故・筑波大学名誉教授）
業績：科学教育に関する著しい業績や貢献によって本学会の発展に寄与された
- 2) 国際貢献賞を贈呈する。
大隅紀和（京都教育大学名誉教授）
業績：アジア諸国の科学教育革新に向けたモデル教材の研究開発と現地活動
- 3) 科学教育実践賞を贈呈する。
吉岡有文（元東京都立練馬高等学校教諭、青山学院大学大学院博士後期課程）
業績：科学教育における状況論的アプローチからの理論と実践を結ぶ研究の推進
- 4) 年会発表賞を贈呈する。
宮崎樹夫（信州大学教育学部）、湯本武司（松本市立開成中学校）
対象研究発表：「中学校数学におけるフローチャート証明の学習支援システムの開発－誤りの特徴に応じた修正促進に着目して」
泉 俊輔（広島大学大学院理学研究科）、中山広文（岡山県立倉敷天城中学校）、
進藤明彦（岡山県立玉島高等学校）
対象研究発表：「高校科学から実験が消える日」
高橋みどり（静岡科学館）、亀井 修（国立科学博物館）、小川義和（国立科学博物館）、
田邊玲奈（国立科学博物館）、田代英俊（科学技術館）
対象研究発表：「科学系博物館における科学リテラシー涵養を目指した学習プログラムの可能性と評価の試み（2）～評価ツール作成までの方法論構築を目指して」及び「科学系博物館における科学リテラシー涵養のための学習支援活動の取り組み－国立科学博物館幼児向け学習プログラムを事例に－」

Ⅱ. 2010年度（自2010年7月1日至2011年6月30日）収支予算書

1 一般会計

【収入の部】

科 目	予 算 額	備 考
(1) 会費	9,005,000	
正会員会費	8,160,000	8,000円×(1,200名×85%)
学生会員会費	200,000	5,000円×(50名×80%)
公共会員会費	20,000	20,000円× 1名
賛助会員会費	135,000	45,000円× 3名
未納分会費	490,000	2009年度実績
(2) 入会金	100,000	1,000円× 100名
(3) 広告料	120,000	1社
(4) 購読料	500,000	図書館等機関、販売店
(5) 著作権料	250,000	出版社著作権、学術著作権、電子図書館
(6) 雑収入	1,000,000	別刷代、利息等
(7) 前年度繰越金	5,116,611	
収入合計	16,091,611	

【支出の部】

科 目	予 算 額	備 考
(1) 管理費	5,422,000	
役員会議等会議費	120,000	理事会・評議員会等開催費
旅費交通費	1,100,000	理事・監事等交通費
通信運搬費	200,000	庶務・経理文書発送、会費請求等
消耗品費	10,000	文房具代
印刷費	82,000	封筒印刷費、会費振替用紙印刷費
事務委託費	3,381,000	庶務・経理・会員・編集事務委託
IT調査・管理費	397,000	年会申込、ホスティングサービス料等
負担金	50,000	日本学術協力財団
雑費	82,000	振込手数料、他
(2) 事業費	6,330,000	
科学教育研究誌	3,830,000	印刷費（年4回）、発送等
レター・学会通信等	320,000	通信印刷費（年1回）、発送、レター編集等
年会・学会賞	1,100,000	第35回年会補助、年会企画費、学会賞
学術交流等	450,000	国際交流、国内学術交流、調査・研究
研究会・支部活動推進	650,000	研究会（年6回）開催支援、支部活動推進
(3) 学会活性化積立金	1,000,000	事業費充実
(4) 選挙管理費積立金	250,000	2年間積立（1年目）
(5) 予備費	3,089,611	
支出合計	16,091,611	

2 特別会計（大塚賞）

【収入の部】

【収入の部】		【支出の部】	
科 目	予 算 額	科 目	予 算 額
前年度繰越収支差額	1,720,375	大塚賞	100,000
雑収入	2,000	予備費	1,622,375
収入合計	1,722,375	支出合計	1,722,375

3 基金・積立金

【基金】7,176,083 + 利息 【学会活性化積立金】2,000,273 + 利息

【役員選挙積立金】250,000

第3号議案（案）

1. 役員選任規定による役員選挙の結果に基づき、次の通り役員候補を推薦する（任期4年）。

理事候補者 縣 秀彦、今村哲史、小川義和、片平克弘、
銀島 文、久保田善彦、猿田祐嗣、隅田 学

監事候補者 堀 哲夫

2. 役員選任規定による会長推薦理事候補者を推薦する（任期4年）。

理事候補者 小山正孝、高藤清美

第4号議案（案）

定款第10条に基づき、次の通り名誉会員の承認を求める。

大木道則、木村捨雄、西之園晴夫、伊藤 卓

2010 年度学会賞の決定について

学会賞選考委員会では、会員からの推薦にもとづいて慎重に協議を重ね、候補者の選考を進めてまいりました。そして、第 240 回理事会の議を経て、以下の会員に日本科学教育学会・大塚賞、同国際貢献賞、同科学教育実践賞、並びに第 33 回年会発表賞を授与することを決定致しました。おめでとうございます。

【大塚賞】

中山 和彦（筑波大学名誉教授）

授賞理由：日本科学教育学会・大塚賞は、科学教育に関する著しい業績や貢献によって本学会の発展に寄与した会員を表彰するものです。

中山和彦名誉会員は、本学会の創設に大きく貢献され、創設後、本学会の理事、監事、副会長、顧問を歴任されるなど、本学会の発展に多大な尽力をされました。

学術行政面では、1970 年から文部省大学学術局専門員、学術国際局学術調査官、文部省学術審議会専門委員として、各大学へのコンピュータの導入、学術文献データベースシステムの開発と利用の普及、科学研究費補助金事務処理システムの開発など数多く貢献をされました。

科学教育の面では、生物教育分野の国際会議で日本代表としての任を果たされ、特に環境教育の創設期の国際会議に複数回にわたって招聘されるなど、世界の環境教育の創設に貢献されました。

教育工学の面では、1980 年代以降に、学習の個別化のためのシステムの開発と教材開発、それを利用した授業方法の啓発のための教員研修会を全国各地で開催し教育の情報化に尽力したこと、中山氏が設計した滑川市のインテリジェントスクールは今日の学校の情報化のモデルとなったこと、CAI システムの開発指導などコンピュータに関わる民間企業の育成など、数多くの貢献をされました。

さらに、人材育成の面においても、筑波大学において理科教育、環境科学、情報工学の 3 つの大学院を担当され、多くの門下生が、本学会をはじめ関係学会、文部科学省、大学、初等中等教育の現場などで、指導的役割を果たすに至っています。

以上のように、本学会への貢献は言うに及ばず、生物教育、環境教育、教育工学、情報工学に関わる学術・教育・産業の創設期の進展に卓越した能力を発揮されておられることから、本学会大塚賞を贈呈して顕彰するに値する功績と認められます。

残念ながら、中山氏は、2010 年 1 月 11 日に逝去されました。中山氏のご冥福をお祈りするとともに、氏の多大なる貢献に感謝の意を表します。

【国際貢献賞】

大隅 紀和（京都教育大学名誉教授）

業績：アジア諸国の科学教育革新に向けたモデル教材の研究開発と現地活動

授賞理由：日本科学教育学会・国際貢献賞は、会員による科学教育の国際貢献・国際協力研究における顕著な業績や功績に対して贈呈するものです。

大隅紀和会員は、国立教育研究所、鳴門教育大学を経て、2003 年に京都教育大学を退官されるまで、欧米およびアジアやアフリカ地域の多数の科学教育研究者を受け入れ、主要な国際ワークショップの開催に日本代表として携わられるとともに、ユネスコ、JICA など

の派遣を通じて、諸外国での科学教育の革新に取り組んでこられました。

過去5年間においても、2006年3月までスリ・ランカ国立教育研究所NIEで3年間、2009年3月までタイ教育省・科学技術教育振興研究所IPSTで2年間、それぞれ科学教育革新に向けたモデル教材の研究開発と現地協力活動などに主導的に取り組まれました。

こうした大隅氏の長年にわたる国際貢献活動は、大学コンソーシアム京都や鳴門教育大学・大学院での講義、及び、本学会年会などでの講演や研究論文等を通じて、日本の科学教育関係者に幅広く情報提供されています。

ここに、氏の科学教育の国際貢献・国際協力研究における業績・功績が特に顕著であると認め、国際貢献賞を贈呈します。

過去5年間の業績等の一部：

大隅紀和、基礎教育と理数科協力の小規模・多目的プロジェクトの事例報告：ータイ国IPSTにおけるJICAボランティアによるモデル学習題材と教具開発、および辺境地校への提供（2007年～2009年）ー広島大学国際教育研究センター『国際教育協力論集』、2010
大隅紀和、ポンパン・Waitayangkoon 他6名（タイ国IPST）、新時代に向けた基礎レベル科学実験題材と機材シリーズの開発、日本科学教育学会年会論文集、33、55－58、2009
大隅紀和、海外ボランティアの現場、OES研究所、2009
大隅紀和、科学教育戦略としての国際協力のあり方ー基礎教育と理数科の教材パッケージの現地開発ースリ・ランカの事例から、日本科学教育学会研究会報告、Vol.20(4)、31－36、2006

【科学教育実践賞】

吉岡 有文（元東京都立練馬高等学校教諭、青山学院大学大学院博士後期課程）

業績：科学教育における状況論的アプローチからの理論と実践を結ぶ研究の推進

授賞理由：日本科学教育学会・科学教育実践賞は、科学教育の実践研究において特に顕著な業績や功績のあった会員を表彰するものです。

吉岡有文会員は、自ら授業をフィールドとして実践的研究を継続的におこない、これまで多くの成果を様々な学会や著書を通じて発表されています。長期にわたり一貫して「コミュニケーションとしての科学の学び」を追究されています。氏の一連の研究は、科学教育における状況論的研究に位置づけられ、以下に例示する最近3年間の発表においても、学校における科学リテラシーやサイエンス・コミュニケーションの検討に精力的に取り組まれています。

氏による「科学の現場におけるフィールドワーク」の知見は、実践者としてこれから実践研究に着手しようとする者の範例となる研究スタイルを提案するものであります。

ここに、氏の業績・功績が特に顕著であると認め、科学教育実践賞を贈呈します。

過去3年間の業績等の一部：

吉岡有文、科学の学習における具体性とは何か、日本科学教育学会年会論文集、33、421-422、2009

吉岡有文、学校の科学における機器を媒介にした科学リテラシーの学び、日本科学教育学会年会論文集、32、235-236、2008

吉岡有文、サイエンス・コミュニケーションを学校でおこなうことー学びのネットワーク化とローカル化ー、科学教育研究、31(4)、391－399、2007

【第 33 回年会発表賞】

第 33 回年会（2009 年）発表賞は、次の 3 件の発表をした 10 名の学会員に授与されることが決まりました。おめでとうございます。

- ① 宮崎樹夫（信州大学教育学部）、湯本武司（松本市立開成中学校）
発表題目：「中学校数学におけるフローチャート証明の学習支援システムの開発－誤りの特徴に応じた修正促進に着目して」
- ② 泉 俊輔（広島大学大学院理学研究科）、中山広文（岡山県立倉敷天城中学校）、進藤明彦（岡山県立玉島高等学校）
発表題目：「高校科学から実験が消える日」
- ③ 高橋みどり（静岡科学館）、亀井 修（国立科学博物館）、小川義和（国立科学博物館）、田邊玲奈（国立科学博物館）、田代英俊（科学技術館）
発表題目：「科学系博物館における科学リテラシー涵養を目指した学習プログラムの可能性と評価の試み（2）～評価ツール作成までの方法論構築を目指して」及び「科学系博物館における科学リテラシー涵養のための学習支援活動の取り組み－国立科学博物館幼児向け学習プログラムを事例に－」

会員の皆様からの候補者推薦へのご協力に感謝申し上げます。今回の有効推薦数は 36 票でした（前回 60 票）。選考委員会において、最高得票数 2 票の 6 件の発表について、「科学教育に関する優れた研究を行い、その成果を本学会の年会で発表した本会会員に贈呈する」、過去の受賞者においては「年会発表賞受賞後さらに優れた発表をした場合には、その発表について受賞対象とする」との選考規定に基づき慎重に審議し、候補となった学会員について、第 240 回理事会とメールでの審議を経て年会発表賞受賞者を決定いたしましたことをご報告いたします。①の発表は、数学における証明の流れや、幾何の証明に用いる条件などを、学習面の誤りなどを考慮して、学習支援システムに組み込んだことが評価されました。②の発表は、高校科学での実験の扱いの深刻な状況について、動的シミュレーションの手法を活用して論じたことが評価されました。③の発表は、博物館での学習プログラムの評価ツールの開発に取り組んだこと、幼児段階まで含めた学習支援の展望を示したことが評価されました。なお、③の発表については、同じ研究プロジェクトの成果として発表された 2 件の優れた研究発表であったため、審議の末、これらを 1 件と見なして、いずれの発表者にも年会発表賞を授与することにしました。

10 名の学会員の皆さまの今後益々のご発展をご期待申し上げます。

（学会賞担当理事 小倉、美馬）

第 34 回年会案内（最終プログラム）

年会企画委員会・年会実行委員会

1. テーマ：次世代の科学力を育てる ―社会とのグラウンディングを求めて―

趣 旨：メインテーマ「次世代の科学力を育てる」は、前回の年会（第 33 回京都大会）を引き継いでいます。今回はこれからの「知識基盤社会」に求められる「科学力」について明らかにすること、および、「科学力」を育てるための教育方法について議論をしました。今回の年会（第 34 回広島大会）では、前回の議論を踏まえ、本学会が社会とどのように関わっていけば「科学力」を社会に根付かせていくこと（グラウンディング）ができるか、その考え方や具体的方策について議論を深めていきます。

2. 日程：平成 22（2010）年 9 月 11 日（土）～ 12 日（日）

3. 会場：広島大学（東広島キャンパス：教育学研究科、サタケメモリアルホール）
（〒 739-8524 東広島市鏡山 1-1-1）

・アクセス方法

J R 西条駅前からバス「広島大学」行に乗り、「広大北口」で下車。

（所要時間約 20 分、詳細は下記 URL 参照）

<http://www.hiroshima-u.ac.jp/top/access/index.html>

4. 主催：日本科学教育学会

5. 後援：文部科学省、広島県教育委員会、東広島市教育委員会、広島市教育委員会

6. 日程：※タイムテーブルは次ページに掲載

○第 241 回理事会：9 月 10 日（金）15 時～ 16 時、K215 教室

○第 242 回理事会：9 月 12 日（日）12 時 30 分～ 13 時 30 分、K113 教室

○顧問・理事・評議員・支部長合同会議：9 月 10 日（金）16 時～ 17 時、K203 教室

○総会・表彰：9 月 11 日（土）11 時 30 分～ 13 時、A会場（K102 教室）

○各種委員会：開催が確定している委員会は以下の通りです。これ以外については、年会ホームページ等をご確認下さい。

◆編集委員会：9 月 10 日（金）14 時～ 15 時、K116 教室

◆広報委員会：9 月 10 日（金）14 時～ 15 時、K114 教室

◆年会企画委員会・年会実行委員会合同会議：9 月 12 日（日）17 時 30 分～ 18 時 30 分、K113 教室

第34回年会 広島大会 タイムテーブル(案) (2010-07-25版)
 (於: 広島大学東広島キャンパス、2010年9月11日(土)～12日(日))

	前日 9/10(金)	1日目 9/11(土)	2日目 9/12(日)	
08:30				08:30
09:00		受付	受付	09:00
09:30				09:30
10:00		学会企画 課題研究 発表 (2時間) 1セッション 1A1ー	学会企画 課題研究 発表 (2時間) 2セッション 1G1ー	学会企画 課題研究 発表 (2時間) 1セッション 2A2ー
10:30		自主企画 課題研究 発表 (2時間) 5セッション 1B1ー	一般研究 発表 (2時間) 2セッション 1G1ー	年会実行 委員会企 画課題研 究 (2時間) 1セッション 2F1ー
11:00				自主企画 課題研究 発表 (2時間) 4セッション 2B2ー
11:30				一般研究 発表 (2時間) 2セッション 2G3ー
12:00		総会／表彰(昼食をとりながら)・休 憩 (1.5時間)	招待講演「科学教育研究セミナー」(45分) 2I1ー	休憩(15分)
12:30				休憩・新理事会 (1時間)
13:00				
13:30		一般研究発表 (2時間) 6セッション 1G2ー	インタラクティブ セッション (2時間) 1P1・2ー	一般研究発表 (2時間) 6セッション 2G4ー
14:00	各種委員会 (1時間)			
14:30				
15:00		休憩・移動(30分)		休憩(15分)
15:30	理事会 (1時間)			
16:00	顧問・理事・評議 員会合同会議 (1時間)	学会企画シンポジウム (最大2.5時間) 1S1ー	自主企画課題研究発表 (2時間) 5セッション 2B3ー	
16:30				
17:00				
17:30				
18:00		移動(15分)		実行委員会・企画委員 会合同会議 (1時間)
18:30				
19:00	若手の会 (2時間)	懇親会(18:15～) (2時間)		
19:30				
20:00				

7. 内容

■ シンポジウム

テーマ：科学力を育むために－行政、科学者、産業界、学会の立場から－
 日時：9月11日(土) 15:30～18:00 J会場(サタケメモリアルホール)
 司会：山口悦司(本学会年会企画委員会副委員長、神戸大学)

基調講演

1S1-J1 鈴木 寛(文部科学副大臣)

パネル討論

1S1-J2 私のサイエンス教育－「和田サロン」を例として－

和田昭允(横浜サイエンスフロンティア高等学校・常任スーパーアドバイザー)

1S1-J3 科学技術・イノベーション立国－ひと・教育

篠塚勝正(沖電気工業株式会社 相談役)

- 1S1-J4 学会の立場より：あらゆるセクターの協働を
北原和夫（本学会顧問、国際基督教大学）
- 1S1-J5 科学力を育むために－科学教育研究の課題－
吉田 淳（本学会会長、愛知教育大学）

■ 学会企画課題研究

テーマ1：行政から見たESD

日時：9月11日（土）9:30～11:30 A会場（1階K102教室）

オーガナイザー：荻原 彰（三重大学）、加藤 浩（放送大学）

指定討論者：荻原 彰（三重大学）

司会：加藤 浩（放送大学）

- 1A1-A1 長野市の環境学習－ぼくらの裏山プロジェクトに見るESD－
松本至朗（長野市環境部）
- 1A1-A2 岡山市が進める持続可能な社会づくり
～ESD（持続可能な開発のための教育）による人材の育成～
大塚利昭（岡山市環境局環境保全課）
- 1A1-A3 板橋区の環境教育－板橋の子どもたちに「豊かな学び」と「確かな育ち」を－
溝畑直樹（板橋区教育委員会指導室）
- 1A1-A4 日本の地方自治体におけるESDの先進事例
－日本の環境首都コンテストによる事例等から－
枚本育生（NPO法人 環境市民）

テーマ2：科学教育における統計的思考の育成

日時：9月12日（日）9:30～11:30 A会場（1階K102教室）

オーガナイザー：垣花京子（筑波学院大学）

- 2A2-A1 [趣旨説明] 科学教育における統計的思考の育成
垣花京子（筑波学院大学）
- 2A2-A2 中学校教育における統計的思考力の育成に関する研究（1）
西仲則博（奈良教育大学附属中学校）
- 2A2-A3 算数・数学科における統計的思考力の育成
西村圭一（国立教育政策研究所）
- 2A2-A4 理科教育、科学教育の教科課程からみた統計的思考の育成
大高 泉（筑波大学大学院人間総合科学研究科）
- 2A2-A5 企業で必要とされている統計的思考と学校教育への期待
清水貴宏（パナソニック株式会社 セミコンダクター社）
- 2A2-A6 統計教育の歴史と背景と新しい時代での統計的思考の育成
木村捨雄（鳴門教育大学・沖縄国際大学）

■ 招待講演「科学教育研究セミナー」

日 時：9月12日（日）11:45～12:30 A会場（1階K102教室）
司 会：稲垣成哲（神戸大学）

2I1-A1 共感的思考能力育成におけるマンガ表現法の可能性

○鈴木栄幸（茨城大学）、加藤 浩（放送大学）

■ 実行委員会企画課題研究

テーマ：科学技術リテラシーと新しい学習指導要領

日 時：9月12日（日）9:30～11:30 B会場（1階K104教室）

オーガナイザー：猿田祐嗣（国立教育政策研究所）

指定討論者：小川正賢（東京理科大学）、長尾篤志（国立教育政策研究所）

2J1-B1 活用能力としてのキーコンピテンシーの育成について

猿田祐嗣（国立教育政策研究所）

2J1-B2 科学を支えるリテラシーの育成を核とする教育課程の開発
－すべての教科で取り組む－

竹盛浩二（広島大学附属福山中・高等学校、副校長）

2J1-B3 科学を支えるリテラシーの育成を核とする教育課程の開発
－科学的リテラシーを育成する新教科サイエンス－

山下雅文（広島大学附属福山中・高等学校、理科）

2J1-B4 科学を支えるリテラシーの育成を核とする教育課程の開発
－数学的リテラシーを育成する総合的な学習の時間－

服部裕一郎（広島大学附属福山中・高等学校、数学）

指定討論者

2J1-B5 新学習指導要領と科学技術リテラシー開発との関連性

小川正賢（東京理科大学）

2J1-B6 高等学校学習指導要領における数学的リテラシー

長尾篤志（国立教育政策研究所）

■ 自主企画課題研究

===== 【1日目：午前】9月11日（土）9:30 - 11:30 =====

テーマ：科学技術リテラシーの発展に向けた技術教育と理数教育の関係

日 時：9月11日（土）9:30～11:30 B会場（1階K104教室）

オーガナイザー：谷田親彦（広島大学）

指定討論者：磯崎哲夫（広島大学）、長崎栄三（静岡大学）

1B1-B1 [趣旨説明] 科学技術リテラシーの発展に向けた技術教育と理数教育の関係

谷田親彦（広島大学大学院教育学研究科）

- 1B1-B2 中学校教育内容の分析を通じた技術教育における科学教育との接点
○大谷 忠（東京学芸大学）、大和田彩佳（友部中学校）
- 1B1-B3 技術科教育における「学び」の構成から見た科学教育との連携可能性
森山 潤（兵庫教育大学大学院）
- 1B1-B4 これからの科学技術教育に求められる授業について
魚住明生（三重大学）
- 1B1-B5 「ものづくり」のために科学技術リテラシーを育む
竹野英敏（茨城大学）
- 1B1-B6 小・中学校一貫した「ものづくり学習領域」の教育課程研究の成果と課題
山崎貞登（上越教育大学大学院）
- 指定討論者
- 1B1-B7 科学教育と技術教育の関係を再考する
磯崎哲夫（広島大学大学院教育学研究科）
- 1B1-B8 科学技術リテラシーの発展に向けた数学教育・理科教育・技術教育の協働
長崎栄三（静岡大学大学院教育学研究科）

テーマ：これからの学校教育における説明・証明研究の展望 III

日 時：9月11日（土）9:30～11:30 E会場（1階 K114 教室）

オーガナイザー：茅野公穂（信州大学）

- 1B1-E1 図形の性質の証明の評価について
中川裕之（教育測定研究所）
- 1B1-E2 数学的な知識・技能の評価枠組みの構築に向けて：証明の場合
宮川 健（上越教育大）
- 1B1-E3 命題が偽であることの説明における学習者による命題解釈の分析
大塚慎太郎（筑波大学大学院）
- 1B1-E4 既習の証明活動の活用による証明の構想のあり方に関する一考察
－ argumentation の「裏づけ」に着目して－
辻山洋介（筑波大学大学院）
- 1B1-E5 証明の本質の理解を促す指導の開発研究
牧野智彦（宇都宮大学）
- 1B1-E6 学校数学での理由の説明・証明を捉える枠組み
茅野公穂（信州大学）

テーマ：数学教育におけるテクノロジー活用の将来像の考察

－数学的活動から創造性の育成をめざして－

日 時：9月11日（土）9:30～11:30 G会場（1階 K116 教室）

オーガナイザー：垣花京子（筑波学院大学）、渡辺 信（東海大学）

- 1B1-G1 [趣旨説明] 数学教育におけるテクノロジー活用の将来像の考察
－数学的活動から創造性の育成をめざして－
垣花京子（筑波学院大学）

- 1B1-G2 高等学校でのテクノロジーの活用を通しての授業の将来
末廣 聡（岡山県立備前緑陽高等学校）
- 1B1-G3 SPP 活動からみたテクノロジー活用の将来
○氏家亮子（金沢工業高等専門学校）、佐伯昭彦（鳴門教育大学）、作宮和泉（金沢工業高等専門学校）
- 1B1-G4 実験数学による創造性の育成についての検討
清水克彦（東京理科大学）
- 1B1-G5 授業研究を通してのテクノロジー活用の役割の将来
－作図ツール GC に関する例を基にして－
飯島康之（愛知教育大学）
- 1B1-G6 数学的活動から創造性の育成をめざして
－アメリカでの T3 の変化を通してテクノロジー活用の将来－
渡辺 信（日本数学検定協会）

テーマ：「科学教育と科学論」再考：科学史・STS・科学リテラシー

日 時：9月11日（土）9:30～11:30 H会場（2階 K203 教室）

オーガナイザー：河野俊哉（暁星学園・東京大学大学院・法政大学・聖心女子大学・青山学院女子短期大学）、北田 薫（北海道大学教育学院・札幌龍谷学園高等学校）

指定討論者：小川正賢（東京理科大学）

- 1B1-H1 理科教師にとっての自己改善としての STS － STS を学ぶことによって見えてくるもの－
八巻俊憲（福島県立田村高等学校・東京工業大学大学院）
- 1B1-H2 STS 教育の歴史的アプローチの検討
－リスク社会における科学リテラシー育成の視点から－
北田薫（北海道大学教育学院）
- 1B1-H3 「理科基礎」と「自然科学史」の間－2つの《現場》から考える－
山田俊弘（千葉県立幕張総合高等学校・茨城大学）
- 1B1-H4 科学リテラシーの観点から「科学教育と科学史」を再考する
－中等教育と高等教育の事例をもとに－
河野俊哉（暁星学園・東京大学大学院・法政大学・聖心女子大学・青山学院女子短期大学）
- 1B1-H5 持続可能な社会の構築と STS 教育への期待
藤岡達也（上越教育大学大学院）

テーマ：これからの統計教育の方向性 (4)：「活用」に向けた授業の具体像と評価について

日 時：9月11日（土）9:30～11:30 I会場（2階 K215 教室）

オーガナイザー：青山和裕（愛知教育大学）

- 1B1-I1 [趣旨説明] これからの統計教育の方向性 (4)：
「活用」に向けた授業の具体像と評価について
青山和裕（愛知教育大学）
- 1B1-I2 「資料の活用」の指導における現状と課題
永田潤一郎（国立教育政策研究所）

- 1B1-I3 データ分布の読み取りにおける学習者の誤った認識
小口祐一（茨城大学）
- 1B1-I4 中学校教育における統計的思考力の育成に関する研究（2）
西仲則博（奈良教育大学附属中学校）
- 1B1-I5 中学校数学「資料の活用」における指導のあり方
佐藤寿仁（岩手大学教育学部附属中学校）

===== 【2日目：午前】 9月12日（日）9:30 - 11:30 =====

テーマ：数学的モデリングの授業実践を通じて、どんな力をどのように育てるか
日 時：9月12日（日）9:30～11:30 E会場（1階K114教室）
オーガナイザー：松寄昭雄（鳴門教育大学）
指定討論者：池田敏和（横浜国立大学）

- 2B2-E1 データに対する多面的な見方を育成する数学的モデリングの教材開発
新井 仁（長野市立柳町中学校）、西村圭一（国立教育政策研究所）
- 2B2-E2 1次関数とみなすことの指導についての事例的研究
藤原大樹（横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校）
- 2B2-E3 数学的モデリングにおける生徒の認識
柳本 哲（京都教育大学）
- 2B2-E4 現実事象への解釈を意識させる数学的モデル化教材の開発に関する考察
岡留優介（広島大学附属中・高等学校）
- 2B2-E5 科学の文法としての統計学：実践的教育への期待
椿 広計（統計数理研究所）

テーマ：インタラクション・デザイン・学習 II
日 時：9月12日（日）9:30～11:30 G会場（1階K116教室）
オーガナイザー：稲垣成哲（神戸大学）

- 2B2-G1 [趣旨説明] インタラクション・デザイン・学習 II
稲垣成哲（神戸大学）・楠 房子（多摩美術大学）
- 2B2-G2 実践事例から考える聴覚障害者向けの拡張現実感の利用
○高橋 徹（東京工業大学）、生田目美紀（筑波技術大学）、楠 房子（多摩美術大学）、
小野 功（東京工業大学）、寺野隆雄（東京工業大学）
- 2B2-G3 実空間と仮想空間が連動するインタラクティブな教材の有用性
○森田裕介（早稲田大学）、瀬戸崎典夫（早稲田大学）、岩崎 勤（サイバネットシス
テム（株））
- 2B2-G4 博物館の資料と街をつなぐ学びのデザイン
○佐藤優香（国立歴史民族博物館）、原田 泰（千葉工業大学）、小島道裕（国立歴史
民族博物館）、楠 房子（多摩美術大学）

2B2-G5 日常生活における危険の科学教育：

日本科学未来館における教育と科学を一体化する試み

○井上美喜子（産業技術総合研究所）、大内久和（東京理科大学・産業技術総合研究所）、西田佳史（産業技術総合研究所）、北村光司（産業技術総合研究所）、金 一雄（産業技術総合研究所）、溝口 博（東京理科大学）

テーマ：マンガという教育メディア II

日 時：9月12日（日）9:30～11:30 H会場（2階 K203 教室）

オーガナイザー：竹中真希子（大分大学）

2B2-H1 マンガで学ぶビジネス－海外ワークショップ報告－

○寺野隆雄（東京工業大学）、吉川 厚（東京工業大学）、山本秀男（中央大学）、折田明子（慶應義塾大学）、小川美香子（東京海洋大学）

2B2-H2 マンガでつくる実験教材説明書の開発

○中村久良（株式会社ナリカ）、大黒孝文（同志社女子大学）

2B2-H3 マンガでつくる実験教材説明書の評価

○大黒孝文（同志社女子大学）、中村久良（株式会社ナリカ）、竹中真希子（大分大学）、稲垣成哲（神戸大学）

2B2-H4 マンガを使った教え方－新人訓練用教材を使って－

○吉川 厚（東京工業大学）、寺野隆雄（東京工業大学）、折田明子（慶應義塾大学）、山本秀男（中央大学）、小川美香子（東京海洋大学）

テーマ：社会の中の科学・技術とその教育を考える－放射性廃棄物の処理問題での合意形成に焦点を当てて－

日 時：9月12日（日）9:30～11:30 I会場（2階 K215 教室）

オーガナイザー：熊野善介（静岡大学）

2B2-I1 H L W地層処分地選定に関する日本型合意形成モデルの構築に向けて (1)
興 直孝（静岡大学）

2B2-I2 H L W地層処分地選定に関する日本型合意形成モデルの構築 (2)
－教育機関での社会的合意形成に関するデジタルコンテンツの開発－

○熊野善介、丹沢哲郎、内ノ倉真吾、萱野貴広（静岡大学）、井頭麻衣子、バンバン・プルワント（静岡大学大学院）

2B2-I3 H L W地層処分地選定に関する日本型合意形成モデルの構築 (3)
－中学校理科における単元「科学技術と人間」の授業実践－

○内ノ倉真吾（静岡大学）、西本保宏（静岡大学教育学部附属島田中学校）、藪崎正人（静岡大学教育学部附属島田中学校）、萱野貴広（静岡大学）、丹沢哲郎（静岡大学）、熊野善介（静岡大学）

2B2-I4 H L W地層処分地選定に関する日本型合意形成モデルの構築 (4)
－一般公衆への社会的受容に関するゲームの開発－

○奥野健二（静岡大学）、大矢恭久（静岡大学）

- 2B2-15 H L W地層処分地選定に関する日本型合意形成モデルの構築 (5)
 ー正しい情報が意思決定に与える影響ー
 ○三枝 新 (放射線医学総合研究所)、米原英典 (放射線医学総合研究所)、酒井一夫 (放射線医学総合研究所)
- 2B2-16 H L W地層処分地選定に関する日本型合意形成モデルの構築 (6)
 ー日本型合意形成モデルの設計ー
 中武貞文 (鹿児島大学)

===== 【2日目：午後】 9月12日 (日) 15:45 - 17:45 =====

テーマ：我が国のこれからの卓越性の科学教育と教育課程編成
 ー“科学がわかる教育”から“科学を創る教育”へー
 日 時：9月12日 (日) 15:45～17:45 B会場 (1階 K104 教室)
 オーガナイザー：吉岡亮衛 (国立教育政策研究所)

- 2B3-B1 [趣旨説明] 卓越性の科学教育とは
 吉岡亮衛 (国立教育政策研究所)
- 2B3-B2 フランスにおける卓越性の科学教育
 ○三好美織 (福岡教育大学)、磯崎哲夫 (広島大学大学院教育学研究科)
- 2B3-B3 生徒の才能の芽を育て、優れた創造的人材育成へとつなげる生物教育課程：
 アメリカの BSCS カリキュラムを事例として
 丹沢哲郎 (静岡大学)
- 2B3-B4 物理オリンピック事業から見えて来た卓越性科学教育のための条件
 北原和夫 (国際基督教大学)
- 2B3-B5 高大連携生命科学教育における卓越性：理科学目横断講義の実践
 ○吉村成弘、日詰光治、桑田昌宏、竹安邦夫 (京都大学大学院)
- 2B3-B6 卓越性の科学教育とインフォーマル教育
 縣 秀彦 (自然科学研究機構 国立天文台 天文情報センター)
- 2B3-B7 知の創成と教育心理学
 伊藤康児 (名城大学)
- 2B3-B8 知の創成力の育成と脳科学
 黒田恭史 (佛教大学)
- 2B3-B9 卓越性の科学教育の推進と課題ー教育，知識の体系化の再構築：
 “科学がわかる教育”から“科学を創る教育”へー
 木村捨雄 (鳴門教育大学)

テーマ：科学教育からみたエネルギー・環境教育
 日 時：9月12日 (日) 15:45～17:45 E会場 (1階 K114 教室)
 オーガナイザー：小田泰史 (蒲都市立形原北小学校)、平賀伸夫 (三重大学)

- 2B3-E1 [趣旨説明] 科学教育から見たエネルギー・環境教育
 ○小田泰史 (蒲都市立形原北小学校)、平賀伸夫 (三重大学)

- 2B3-E2 日本モンキーセンターの生物多様性教育―複雑なものを複雑なままに―
高野 智（財団法人 日本モンキーセンター）
- 2B3-E3 環境学習施設・市役所・企業等と連携したエネルギー・環境教育
―小5・社会科「エコチャレンジ チームつばさ」の実践を通して―
間瀬智広（愛知県高浜市立翼小学校）
- 2B3-E4 日本板硝子株式会社四日市事業所との連携による理科授業
―四日市市における企業連携授業の取り組み―
○大池和豊（四日市市立西陵中学校）、池内典史（日本板硝子株式会社四日市事業所）、
相澤一弘（日本板硝子株式会社四日市事業所）、倉田彰久（四日市市立笹川中学校）、
飯田一巳（四日市市立三重北小学校）、森田 定（四日市市立山手中学校）、植松佳子
（四日市市立川島小学校）、長崎雅子（四日市市教育委員会指導課）、稲毛弥生（四日
市市教育委員会教育支援課）、中村隆志（四日市市教育委員会教育支援課）、平賀伸夫
（三重大学）
- 2B3-E5 エネルギー教育におけるベストミックスの教材化
○打田晃士（三重大学大学院）、原 宏介（名古屋市立弥富小学校）、平賀伸夫（三重大学）

テーマ：初等・中等教育における統計的思考力を育成する実践研究と今後の展開へ向けて
日 時：9月12日（日）15:45～17:45 G会場（1階 K116 教室）
オーガナイザー：松元新一郎（静岡大学）

- 2B3-G1 実データをもとに現実事象を考察させる授業実践
～国民生活基礎調査のデータから所得の分布傾向を考える～
中本信子（筑波大学附属中学校）
- 2B3-G2 中学校1年「資料の活用」における生徒のやりがいを引き出す実践
近藤正雄（磐田市立城山中学校）
- 2B3-G3 数学基礎における統計の授業実践―柿の種とピーナッツの比率は？―
五十畑直（福井県立羽水高校）
- 2B3-G4 中学校数学「資料の活用」の指導に関する調査研究
松元新一郎（静岡大学）
- 2B3-G5 問題解決の枠組みと統計的思考力の育成～「データの分析」の授業の視点
渡辺美智子（東洋大学）

テーマ：科学リテラシーの涵養に資する科学系博物館の学習プログラムの開発と体系化
日 時：9月12日（日）15:45～17:45 H会場（2階 K203 教室）
オーガナイザー：小川義和（国立科学博物館）

- 2B3-H1 「科学技術の智」と博物館への期待
北原和夫（国際基督教大学）
- 2B3-H2 科学系博物館における科学リテラシーの実装と課題
小川義和（国立科学博物館）
- 2B3-H3 科学系博物館における科学リテラシー涵養を目指した学習プログラム事例（1）
「大きな水の話」
○亀井 修・永山俊介（国立科学博物館）、高橋みどり（静岡科学館）、齊藤昭則
（京都大学大学院）

- 2B3-H4 科学系博物館における科学リテラシー涵養を目指した学習プログラム事例（2）
「あれもこれもカガクヘンカー化学でつながる身近な生活」
○田代英俊（科学技術館）、田邊玲奈、若林文高、岩崎誠司、永山俊介、小川義和（国立科学博物館）、高橋みどり（静岡科学館）、野田 学（名古屋市科学館）
- 2B3-H5 科学系博物館における科学リテラシー涵養を目的とした学習プログラムの評価手法
○高橋みどり（静岡科学館）、渡辺千秋（国立科学博物館）
- 2B3-H6 科学リテラシー涵養活動のあり方
渡辺政隆（科学技術振興機構）

テーマ：持続可能な社会とサイエンス & ヒューマン・コミュニケーション

日 時：9月12日（日）15:45～17:45 I会場（2階K215教室）

オーガナイザー：野上智行（社団法人国立大学協会・神戸大学名誉教授）

指定討論者：川上昭吾（生命の海科学館）

- 2B3-I1 [趣旨説明] 持続可能な社会とサイエンス&ヒューマン・コミュニケーション
野上智行（神戸大学名誉教授）
- 2B3-I2 理系学部学生を対象にしたSD意識調査
ー女子大における授業プログラム開発過程における検討ー
○三宅志穂（神戸女学院大学）、竹中真希子（大分大学）
- 2B3-I3 「生命の海科学館」の活動を通じた社会連携活動の在り方の開発研究 I I
ー特に、学校との連携について
○山中敦子（生命の海科学館）、浅井 猛（生命の海科学館）、川上昭吾（生命の海科学館）
- 2B3-I4 兵庫県における持続可能な社会に向けた市民科学活動支援の取組と事例紹介
○伊藤真之、武田義明、蛭名邦禎、田中成典、堂園いくみ、前川恵美子（神戸大学）
- 2B3-I5 科学館体験の長期記憶に関する調査研究の報告
○湯浅万紀子（北海道大学）、清水寛之（神戸学院大学）

■ 一般研究発表

===== 【1日目：午前】9月11日（土）9:30 - 11:30 =====

セッション：IT・メディア利用の科学教育システム（1）

日 時：9月11日（土）9:30～11:30 D会場（1階K113教室）

座 長：二見尚之（湘南工科大学）、名越利幸（岩手大学）

- 1G1-D1 自律型ロボットの総合学習の補助活動による学びの支援の検討
○二見尚之（湘南工科大学）、市山雅美（湘南工科大学）
- 1G1-D2 GeoGebra の特性を活かした教材開発ー極限に関する教材例ー
舟川 快（愛知教育大学大学院）
- 1G1-D3 作図ソフトを利用した数学的探究における意思決定と探究方法に関する一考察
金田和豊（名古屋市立汐路中学校）
- 1G1-D4 “運動解析システム”を利用した物理学の学習
末谷健志（山口県立宇部中央高等学校）

- 1G1-D5 物質中の原子・分子の動きをイメージ把握するための Web 教材の改良・整備
 ー分子動力学シミュレーションを利用してー
 〇赤松 直 (高知大学)、川上紳一 (岐阜大学)、澤口直哉 (室蘭工業大学)、河村雄行 (東京工業大学大学院理工学研究科)
- 1G1-D6 「学校気象台」と地域連携ネットワークの構築
 〇名越利幸、梶原昌五、藤崎聡美、井上祥史、中西貴裕、田中吉兵衛、野田 賢 (岩手大学)、黄川田泰幸、高橋長兵 (岩手大学教育学部附属小)、及川 敏 (盛岡市立仙北小)、石川浩治 (東大大気海洋研)

セッション：教育実践・科学授業開発（1）

日 時：9月11日（土）9:30～11:30 F会場（1階 K115 教室）

座 長：瀬戸崎典夫（早稲田大学）、和田重雄（お茶の水女子大学）

- 1G1-F1 多視点型インタラクティブ教材を用いた能動的学習による理解度の評価
 〇瀬戸崎典夫（早稲田大学）、岩崎 勤（サイバネットシステム（株））、森田裕介（早稲田大学）
- 1G1-F2 運動状況を対象とした Error-based Simulation と中学校理科における授業実践
 〇今井 功（千葉市立新宿中学校）、平島 宗（広島大学大学院工学研究科）、堀口智也（神戸大学海事科学研究科）、東本崇仁（東京理科大学）
- 1G1-F3 身近さと学ぶ意義が感じられる科学の授業
 ー工学の知を小学生に伝える効果についての実践的研究ー
 〇中牟田宴子（NPO 法人センス・オブ・ワンダー）、三木功次（東京大学）、鈴木真二（東京大学）
- 1G1-F4 ロボットを用いた問題解決能力・科学的思考力を向上させる教育プログラムの開発と公立小学校での実践
 和田重雄（お茶の水女子大学）
- 1G1-F5 PISA 型学力伸張の理科授業設計（II）：論議活動を取り入れた科学文章作り
 〇孔 泳泰（晋州教育大学校科学教育科）、姜 妙姪（晋州教育大学校科学教育科）
- 1G1-F6 小グループで議論を促すことが科学的に解釈する力の育成に及ぼす効果
 清水 誠（埼玉大学）、黒川 昇（蓮田市立黒浜南小学校）、〇中山秀人（さいたま市立仲町小学校）

===== 【1日目：午後】9月11日（土）13:00 - 15:00 =====

セッション：科学教育連携システム

日 時：9月11日（土）13:00～15:00 B会場（1階 K104 教室）

座 長：田代英俊（（財）日本科学技術振興財団・科学技術館）、岡田 努（福島大学）

- 1G2-B1 「青少年のための科学の祭典」の効果測定
 〇田代英俊、中村 隆、桃井直美、稲垣裕介（（財）日本科学技術振興財団・科学技術館）、小山 治（東京大学）
- 1G2-B2 科学祭開催による社会連携活動の可能性
 美馬のゆり（公立はこだて未来大学）

- 1G2-B3 「次世代の科学力」を育てる「未来の科学者養成講座」の取り組み (2)
 ○若月 聡、野村 純、中澤 潤、飯塚正明、板倉嘉哉、加藤 修、加藤徹也、塩田瑠美、
 鈴木隆司、妹尾裕彦、東崎健一、野崎とも子、野邊 厚、林 英子、米田千恵、
 川上喜久子 (千葉大学)
- 1G2-B4 学博連携における博物館教員の役割
 戸田 孝 (滋賀県立琵琶湖博物館)
- 1G2-B5 「ふくしまサイエンスぷらっとフォーラム」における大学の果たす役割について (2)
 岡田 努 (福島大学)

セッション：教育実践・科学授業開発 (2)

日 時：9月11日 (土) 13:00～15:00 D会場 (1階 K113 教室)

座 長：渡邊重義 (熊本大学)、松原憲治 (国立教育政策研究所)

- 1G2-D1 授業分析で導く理科教育内容のリンク
 渡邊重義 (熊本大学)
- 1G2-D2 概念の問い直しはいつ起きるか
 齊藤萌木 (東京大学大学院)
- 1G2-D3 自己の思考の変遷に対する気づきを促す手法
 ○中城 満 (高知大学教育学部附属小学校)、楠瀬弘哲 (高知市立鴨田小学校)、
 川崎 謙 (高知大学)
- 1G2-D4 数学と理科の問題における文脈依存性に関する生徒の意識
 ○小原美枝 (神奈川県立百合丘高等学校)、安藤秀俊 (北海道教育大学旭川校)
- 1G2-D5 理科授業での生徒の理解の過程に関する談話分析
 松原憲治 (国立教育政策研究所)

セッション：科学教育の現代的課題

日 時：9月11日 (土) 13:00～15:00 E会場 (1階 K114 教室)

座 長：吉岡亮衛 (国立教育政策研究所)、宮下 治 (関東学院大学)

- 1G2-E1 高校生の持つ「人生の意味」についての考え方
 ○吉岡亮衛 (国立教育政策研究所)、藤田剛志 (千葉大学)、寺田光宏 (岐阜聖徳学園
 大学)、シュテファン・カイザー (筑波大学)
- 1G2-E2 ホスピス病棟における観望会開催 (実践報告)
 尾崎勝彦 (無所属)
- 1G2-E3 生涯学習における数学教育－数学教育は生涯学習になりうるか－
 渡辺 信 (日本数学検定協会)
- 1G2-E4 幼児教育における自然体験学習の現状と課題に関する研究
 宮下 治 (関東学院大学)
- 1G2-E5 日本の中学校における生物教育の歴史的分析－学習指導要領に基づいて－
 ○小銭彩香 (岡山大学大学院)、田中賢二 (岡山大学)
- 1G2-E6 大正期の独創性教育
 館江柝郎 (東京工業大学大学院社会理工学研究科)

セッション：科学教育各論

日 時：9月11日（土）13:00～15:00 G会場（1階 K116 教室）

座 長：荻原文弘（佐久長聖中学・高等学校）、両角達男（上越教育大学）

- 1G2-G1 K氏からの依頼「圧油タンク油面リレー誤動作原因調査」
荻原文弘（佐久長聖中学・高等学校）
- 1G2-G2 数学教師の数学観に関する哲学的観点からの一考察
杉野本勇氣（広島大学大学院教育学研究科）
- 1G2-G3 操作から構造に進む理解過程の分析－2項定理を事例として－
○岩知道秀樹（広島大学大学院教育学研究科）、岩崎秀樹（広島大学大学院教育学研究科）、大滝孝治（広島大学大学院教育学研究科）
- 1G2-G4 メタ認知的成分からみた練り上げについて
高井吾朗（広島大学大学院教育学研究科）
- 1G2-G5 角の大きさの比較における図形の構成要素の影響
－小学生を対象としたインタビュー調査－
増田有紀（筑波大学大学院人間総合科学研究科）
- 1G2-G6 有理数から平方根に接近する数学的活動における学習者の動き
○両角達男（上越教育大学）、荻原文弘（佐久長聖中学校・高等学校）

セッション：教育方法と評価

日 時：9月11日（土）13:00～15:00 H会場（2階 K203 教室）

座 長：奥山英登（旭川市旭山動物園）、山下修一（千葉大学）

- 1G2-H1 ペンギンは「カワイイ！」だけなのか？ 野生動物との共生を伝える「ペンギンの散歩」の評価
○奥山英登、田中千春、佐賀真一、脇坂文貴、杉村尚美、南川朝美、増田雄一、坂東 元（旭川市旭山動物園）
- 1G2-H2 科学系博物館における企画展評価の手法開発
○高橋みどり（静岡科学館）、小松孝彰（国立科学博物館）
- 1G2-H3 イメージマップを用いた学習支援に関する実践的研究
－中学校理科「天気の変化」単元を事例として－
栢野彰秀（北海道教育大学釧路校）、○森健一郎（釧路市立春採中学校）、三宅正太郎（福山大学）
- 1G2-H4 小学校算数科における数学的モデリングの研究（その1）
－子ども的人間的価値観を大切にした算数授業の実践と評価－
○島田 功（岐阜大学大学院）、益子典文（岐阜大学総合情報メディアセンター）
- 1G2-H5 コア知識一覧表を利用した試行授業の効果
○山下修一（千葉大学）、鈴木康代（南房総市立丸山中学校）、高橋博代（千葉大学教育学部附属中学校）

セッション：科学教育人材養成

日時：9月11日（土）13:00～15:00 I会場（2階 K215 教室）

座長：隅田 学（愛媛大学）、谷塚光典（信州大学）

- 1G2-I1 才能ある子どもの個性・能力を伸長する理科教員の養成プログラム開発（1）
－理科研究入賞児童生徒を指導する教員の思考・行動特性－
○隅田 学（愛媛大学）、白簾あすみ（（株）読売エージェンシー）、加藤智威（広島大学大学院国際協力研究科）
- 1G2-I2 授業に活かさせる中学校教員研修ワークショッププログラムの開発
－気象情報と空気・大気に関する実験を素材として－
○高橋庸哉（北海道教育大学）、坪田幸政（桜美林大学）
- 1G2-I3 博物館と大学の連携による人材育成プログラム実施システム
～非理系学生の理科指導能力向上を通じた科学リテラシーの涵養～
○亀井 修（国立科学博物館）、永山俊介（国立科学博物館）、渡辺千秋（国立科学博物館）、高橋みどり（静岡科学館）
- 1G2-I4 高等学校理科教員実態調査報告
－特色ある理科の取組及び様々な状況の違いと理科教育との関係について－
○松本 誠、木庭治夫、佐藤明子、進藤明彦、長谷川仁子、花上和己、町田義昭、山家真二、渡辺怜子（（独）科学技術振興機構）、小倉 康（国立教育政策研究所）
- 1G2-I5 ティーチング・ポートフォリオの分析による理科教育実習生のリフレクションの深化に関する予備的研究
○谷塚光典（信州大学）、三崎 隆（信州大学）、東原義訓（信州大学）

===== 【2日目：午前】9月12日（日）9:30 - 11:30 =====

セッション：教育実践・科学授業開発（3）

日時：9月12日（日）9:30～11:30 D会場（1階 K113 教室）

座長：内海志典（福山市立福山高等学校）、後藤頭一（国立教育政策研究所）

- 2G3-D1 高等学校化学における「実社会・実生活」との関連を重視した授業に関する研究（1）
－化学概念の理解に対する効果－
○内海志典（広島大学大学院教育学研究科・福山市立福山高等学校）、磯崎哲夫（広島大学大学院教育学研究科）
- 2G3-D2 英訳ワークシートによる高校化学実験の成果と課題
那須悦代（和歌山県立耐久高等学校）
- 2G3-D3 年間を通じた高等学校化学実験レポート作成の取組
○野内頼一（茨城県立土浦第一高等学校）、門井信太郎（茨城県立伊奈高等学校）、後藤頭一（国立教育政策研究所）
- 2G3-D4 高校化学実験の意義を考える一事例①
○森 響一（埼玉県立不動岡高等学校）、後藤頭一（国立教育政策研究所）
- 2G3-D5 「相互評価表」を用いた高等学校化学実験の取り組み
○後藤頭一（国立教育政策研究所）、松原静郎（桐蔭横浜大学）、寺谷徹介（東京学芸大学名誉教授）

2G3-D6 「相互評価表」を用いた高等学校化学実験授業の事例研究

○北川輝洋（市立千葉高等学校）、後藤頭一（国立教育政策研究所）

セッション：教育実践・科学授業開発（４）

日時：9月12日（日）9:30～11:30 F会場（1階K115教室）

座長：岩間淳子（川崎市立看護短期大学）、東原貴志（上越教育大学）

2G3-F1 参加型テクノロジーアセスメントの手法を利用した理科教材の開発

～臓器移植法案を題材としたシナリオワークショップ～

○内田 隆（埼玉県立浦和第一女子高等学校）、福井智紀（麻布大学）

2G3-F2 小学校理科における生物教材の分析－「動物の誕生（人）」を例に－

岩間淳子（川崎市立看護短期大学）

2G3-F3 土壌動物を用いた森の健康診断の実践－市民～中学生－

○小西伴尚（三重中学校・高等学校）、井上徳也（京都橘中学校）

2G3-F4 探究活動を通じたエネルギー環境教育指導法の実践と開発

一木 博（京都府立南丹高等学校）

2G3-F5 科学技術学習を取り入れた森林体験プログラム「森小屋づくり体験活動」の分析

○東原貴志（上越教育大学）、加藤尚徳（魚沼市立堀之内中学校）、松風嘉男（上越教育大学附属中学校）、保坂 修（上越教育大学附属中学校）

2G3-F6 夜の水族館の観察とインタラクティブな実験から学ぶ次世代の科学力

井上陽子（神奈川県立西湘高等学校）

===== 【2日目：午後】9月12日（日）13:30 - 15:30 =====

セッション：IT・メディア利用の科学教育システム（２）

日時：9月12日（日）13:30～15:30 A会場（1階K102教室）

座長：余田義彦（同志社女子大学）、坂谷内勝（国立教育政策研究所）

2G4-A1 言語活動の充実を目的とした新聞・ポスター共同編集学習システムの開発

○余田義彦（同志社女子大学）、山野井一夫（筑波学院大学）、西尾康宏（シャープシステムプロダクト株式会社）、伊藤誠英（シャープシステムプロダクト株式会社）

2G4-A2 iPhone / iPod touch 版デジタル運勢ラインシステムの試験的評価：ユーザーインターフェースの観点から

○山口悦司（神戸大学大学院人間発達環境学研究科）、舟生日出男（広島大学大学院工学研究院）、出口明子（宇都宮大学）、稲垣成哲（神戸大学大学院人間発達環境学研究科）

2G4-A3 次世代の科学力を育てる算数・数学教育のための情報環境の構築

宮本俊光（福山市立女子短期大学）

2G4-A4 イラスト教材の使われ方と提供のあり方

○小松幸廣（国立教育政策研究所）、松田知子（相模原市教育委員会）

2G4-A5 学校におけるICTの活用に関する国際比較調査結果（２）

－20年前と現在の日本の状況について－

坂谷内勝（国立教育政策研究所）

セッション：教育実践・科学授業開発（５）

日時：9月12日（日）13:30～15:30 B会場（1階K104教室）

座長：寺田光宏（岐阜聖徳学園大学）、佐藤明子（科学技術振興機構）

- 2G4-B1 **社会とつなぐ理科教育プログラムの開発と評価ー地域企業 de 理科授業ー**
○寺田光宏（岐阜聖徳学園大学）、成瀬秀明（大洲中学校）、飯田寛志（静岡県立総合教育センター）
- 2G4-B2 **米国の科学博物館で開発された COSIA（科学コミュニケーション実践講座）の試行**
○都築章子、藤田喜久、今宮則子、平井和也（特定非営利活動法人海の自然史研究所）、小川貴之、平賀伸夫（三重大学大学院教育学研究科）
- 2G4-B3 **科学コミュニケーションをテーマにした新しい授業の取組**
○谷村優太、吉田健二、橋本裕子、竹内 恵（日本科学未来館）
- 2G4-B4 **スーパーサイエンスハイスクール（SSH）課題研究データベースの開発**
○佐藤明子、進藤明彦、町田義昭、渡辺怜子、長谷川奈治（科学技術振興機構 理科教育支援センター）、橋爪史明、北島一雄、吉田崇雄、田中禎人、多田羅尚子（科学技術振興機構 理数学習支援部）
- 2G4-B5 **スーパーサイエンスハイスクールの開発プログラムの分析**
○佐藤正行（芝浦工業大学）、長谷川成樹（二松学舎大学）、奥田宏志（芝浦工業大学 柏中学高等学校）

セッション：教材開発

日時：9月12日（日）13:30～15:30 E会場（1階K114教室）

座長：高橋三男（東京高専）、山本勝博（茨城大学）

- 2G4-E1 **理科教育のための O₂/CO₂ 計測ー（２）ー赤ピーマンの内呼吸実験ー**
○高橋三男（東京高専）、山本勝博（茨城大学）、堀 哲夫（山梨大学）、寺谷徹介（東京学芸大学）、松原静郎（桐蔭横浜大学）
- 2G4-E2 **科学的思考力の伸長を目指した体験的学習**
○井上徳也（京都橘中学校）、小西伴尚（梅村学園 三重中学校）
- 2G4-E3 **科学的リテラシー育成のための試みー中学校理科における教材開発のためにー**
土屋恭子（広島市立安佐中学校）
- 2G4-E4 **多糖類ゲルを利用した化学実験教材の開発（２）ー多糖類ゲル中での結晶成長実験ー**
○高藤清美（筑波学院大学）、金子正夫（株式会社バイオフィトケモニクス研究所）、根本純一（株式会社バイオフィトケモニクス研究所）、上野寛仁（株式会社バイオフィトケモニクス研究所）
- 2G4-E5 **トウガラシ属の葉を用いた緑色染めー着色困難な木綿染色への試みー**
○山本勝博（茨城大学）、藪内悠子（茨城大学）

セッション：科学的学力・能力

日 時：9月12日（日）13:30～15:30 G会場（1階 K116 教室）

座 長：岡田大爾（広島国際学院大学）、松原道男（金沢大学）

- 2G4-G1 新聞はグラフ・リテラシーの向上に有用か
和田志保美（無所属）
- 2G4-G2 小・中学生の天文分野における空間認識
岡田大爾（広島国際学院大学）
- 2G4-G3 科学者と高校教員とが協働で開発した「科学についての知識を習得させる教育プログラム」：幹細胞研究やってみよう！
○加納 圭（京都大学物質－細胞統合システム拠点）、水町衣里（京都大学物質－細胞統合システム拠点）
- 2G4-G4 ハテナを引き出すための仕掛けづくり
○水町衣里（京都大学物質－細胞統合システム拠点）、加納 圭（京都大学物質－細胞統合システム拠点）
- 2G4-G5 教科書を児童・生徒の思考力を育成するものとするために
－小4「もののかさと温度」、中1「気体の発生と性質」に関して－
○村上 祐、菊地洋一、武井隆明、藤崎聡美（岩手大学）
- 2G4-G6 理科における子どもの記述内容の分析（3）
－TIMSS2007の地学領域における推論問題を例にして－
松原道男（金沢大学）

セッション：教育実践・科学授業開発（6）

日 時：9月12日（日）13:30～15:30 H会場（2階 K203 教室）

座 長：松田稔樹（東京工業大学）、宮崎樹夫（信州大学）

- 2G4-H1 数学科教育法履修生が書いた数学Ⅰ・Aの統計・課題学習の指導案分析
○松田稔樹（東京工業大学大学院社会理工学研究科）、多胡賢太郎（東京工業大学附属科学技術高等学校）
- 2G4-H2 教員養成大学における大学生の論証力の問題点
－小学校算数科での論証の指導と評価に向けて－
○宇野勝博（大阪教育大学）、柳本朋子（大阪教育大学）、真野祐輔（大阪教育大学）
- 2G4-H3 高校数学における学習意欲向上のための実用数学技能検定「数検」の利用に関する一考察－数検受験と数学授業をつなぐ集中講座の実践と効果の検討－
○石井雅代（岐阜大学大学院）、益子典文（岐阜大学総合情報メディアセンター）
- 2G4-H4 新しい数学力を培うパソコンを活用した積分の授業
山本修一（日本大学）
- 2G4-H5 中学校数学におけるフローチャート証明の学習支援システムの開発
－デジタルコンテンツ及びその編成の特徴－
○宮崎樹夫（信州大学）、馬場直樹（長野県伊那市立春富中学校）、村上陽一（サンファースト）、湯本武司（長野県松本市立開成中学校）

セッション：国際比較・国際貢献（国際支援）

日 時：9月12日（日）13:30～15:30 I会場（2階 K215 教室）

座 長：田中賢二（岡山大学）、坪田幸政（桜美林大学）

- 2G4-I1 ドイツ・ザクセン邦一のミッテルシュレーにおける物理教育
田中賢二（岡山大学）
- 2G4-I2 アイルランドにおける中高生を対象とした科学技術研究発表会
○進藤明彦（（独）科学技術振興機構理科教育支援センター、岡山県立玉島高等学校）、
西本昌司（名古屋市科学館）
- 2G4-I3 EU 青少年科学者コンテストの運営開催状況
○木庭治夫（科学技術振興機構（JST）理科教育支援センター）、長谷川仁子（科学技術振興機構（JST）理科教育支援センター）
- 2G4-I4 マレーシア政府の日本留学プログラムから見える国立高専での効果的な留学生支援体制
伊藤光雅（サレジオ工業高等専門学校）
- 2G4-I5 バングラデシュの初等教育における気候変動教育の試み
○坪田幸政（桜美林大学）、熊谷信広（桜美林大学）、相馬 敬（（株）パデコ）
- 2G4-I6 国際協力機構生徒中心の授業の実践とカリキュラムの系統性に配慮した理科教科教材作成～ケニア共和国を事例として～
武村重和（広島大学名誉教授）

■ インタラクティブセッション

インタラクティブ（1）

日 時：9月11日（土）13:00～13:50 C会場（1階 K108 教室）

座 長：久保田善彦（上越教育大学）

- 1P1-C1 アニメーション作成支援ソフト“Galop”を利用する理科授業
○中山 迅（宮崎大学大学院教育学研究科）、林 敏浩（香川大学総合情報センター）、
佐野 工（宮崎市立清武小学校）、藤澤修平（香川大学大学院工学研究科）
- 1P1-C2 面白科学実験を数量的に議論する
渡辺勇三（元宇宙研・文部科学技官、前玉川学園講師）
- 1P1-C3 環境学習を支援する植生遷移ゲーム
○出口明子（宇都宮大学）、楠 房子（多摩美術大学美術学部）、武田義明（神戸大学大学院人間発達環境学研究科）、山口悦司（神戸大学大学院人間発達環境学研究科）、
稲垣成哲（神戸大学大学院人間発達環境学研究科）、杉本雅則（東京大学大学院工学系研究科）
- 1P1-C4 動物園における観察経路の検討：LEGS システム使用と展示パネル使用の比較
○久保太二（滋賀大学大学院）、鈴木真理子（滋賀大学）、井福克也（滋賀大学）、
萩野哲男（神戸大学）、楠 房子（多摩美術大学）、坂本英房（京都市動物園）、鳩野逸生（神戸大学）

1P1-C5 AR を利用した“運動解析共有システム”の提案

末谷健志（山口県立宇部中央高等学校）

1P1-C6 創発的分業支援システムにおける内部リソース間のリンクや外部リソースとのリンクによる知識構築

○舟生日出男（広島大学）、鈴木栄幸（茨城大学）、久保田善彦（上越教育大学）、加藤 浩（放送大学）

インタラクティブ（2）

日 時：9月11日（土）14:10～15:00 C会場（1階K108教室）

座 長：舟生日出男（広島大学）

1P2-C1 簡便に行えるエステル呈色反応

○番場 渉（東京理科大学大学院科学教育研究科）、井上正之（東京理科大学大学院科学教育研究科）

1P2-C2 アンモニアを用いない銀鏡反応

○金子明夏（東京理科大学大学院科学教育研究科）、井上正之（東京理科大学大学院科学教育研究科）

1P2-C3 キトサンに担持した銅（Ⅱ）化合物を用いる還元糖の検出

○小倉祥平（東京理科大学大学院科学教育研究科）、井上正之（東京理科大学大学院科学教育研究科）

1P2-C4 地球立体表示システム“ダジック・アース”を用いた科学系博物館教育におけるプログラムの可能性

○高橋みどり（静岡科学館）、齊藤昭則（京都大学大学院理学研究科）、亀井 修（国立科学博物館）

1P2-C5 中学校理科におけるタンジブル地球儀システムの利用

○久保田善彦（上越教育大学）、西川悟史（日立製作所）、増沢喜良（吾妻中学校）、山下 淳（筑波大学）、葛岡英明（筑波大学）

1P2-C6 バイオ光化学電池を用いた資源・エネルギー教材の開発

○高藤清美（筑波学院大学）、金子正夫（株式会社バイオフォトケモニクス研究所）、根本純一（株式会社バイオフォトケモニクス研究所）、上野寛仁（株式会社バイオフォトケモニクス研究所）

8. 特別企画

○ 若手の会（受付は終了しました）

日時：9月10日（金）18時～20時 会場：JR西条駅周辺 会費：7,000円（予定）

9. 参加申込要領

(1) WEB 申込期限：8月21日（土）まで <http://www.jsse.jp/jsseam/modules/note3/>

当日参加も受け付けますが、年会実行委員会の事務処理の負担を軽減するために、年会ホームページによる事前申込にご協力下さい。

- (2) **参加費**：一般会員：7,000円、学生会員：5,000円（年会論文集代を含む）
- (3) **懇親会**：懇親会の参加は事前登録となります。WEB 申込で申し込んで下さい。
日時：9月11日（土）シンポジウム終了後 会場：学士会館2F・レセプションホール
参加費：5,500円
- (4) **年会論文集（追加購入）**：1部3,500円
- (5) **年会論文集送料**：年会に参加せず、論文集のみを希望される方には年会終了後に送料着払いでお送りいたします。配達時に送料を配送業者にお支払下さい。
- (6) **総会時の弁当について**：大会日程をコンパクトにするため、11日（土）の総会および関連行事は昼食を食べながら行うことにしました。そのため、特に会員の方はお弁当を事前予約で申し込むようにしてください。弁当代（お茶付き）は800円です。
- (7) **送金方法**：参加費の支払は、ゆうちょ銀行（郵便振替）で一人につき1枚、送金内容を明記して振り込んでください。送金方法は郵便振替に統一させていただきました。
口座番号：01370-2-48345
口座名称：日本科学教育学会第34回年会実行委員会
（注）振込期限：8月23日（月）までとします。これ以降は振り込まないで当日会場にてお支払いください。
- (8) **宿泊等の斡旋**：おこないませんので、各自で確保をお願い致します。

10. その他

○ 課題研究発表・一般研究発表について

- ・課題研究発表の発表形式については、オーガナイザーに一任しておりますので、オーガナイザーの指示に従ってください。
- ・課題研究のオーガナイザーは、所定の時間内に研究発表と総括討論がバランスよく行えるように時間の調整をしてください。
- ・一般研究発表での発表は、原則として5件または6件当たり2時間を配当してあります。1件の発表の持ち時間は20分（発表15分、質疑5分）です。鈴をそれぞれ予鈴12分、本鈴15分、終了鈴20分に鳴らします。時間厳守をお願いします。
- ・発表者は、事前の休憩時間に会場係に申し出て、各自で使用機器の接続等についてチェックしてください。
- ・フロアの方が発言される際には、必ず「所属」と「氏名」を明らかにしてください。

○ インタラクティブセッションについて

- ・発表を2グループに分け、セッションの前半、後半を責任発表担当時間といたしますので、ご承知置きください。指定された時間帯は、発表パネル前に常駐し、発表及び質疑応答をしてください。これをもって、発表したことを認定いたします。
- ・インタラクティブセッションの会場（C会場（K棟1階K108教室））は、休憩室が併設されています。

○ 発表機材について

- ・Macを使って発表される方はVGAディスプレイアダプタをご持参下さい。

○ 昼食について

- ・大会日程をコンパクトにするため、11日（土）の総会および関連行事は昼食を食べながら行うことにしました。そのため、お弁当の事前予約を受け付けます。（9.（6）をご参照下さい。）

○ 会場利用上の注意事項について

- ・年会期間中は、名札を必ず身に付けてください。
- ・C会場（K棟1階K108教室）に休憩室を併設します。ご利用ください。
- ・クローク業務をおこないません。場所はK棟1階K109教室です。

11. 年会実行委員会

[実行委員長] 岩崎秀樹（広島大学）

[実行委員] 磯崎哲夫（広島大学）、小山正孝（広島大学）、清水欽也（広島大学）、馬場卓也（広島大学）、木下博義（広島大学）、松浦拓也（広島大学）

[連絡先] 〒739-8524 東広島市鏡山1-1-1 広島大学大学院教育学研究科
岩崎秀樹 E-mail: jsse34@hiroshima-u.ac.jp

12. 年会企画委員会

[委員長] 高藤清美（筑波学院大学）

[副委員長] 銀島 文（国立教育政策研究所）、山口悦司（神戸大学）

[年会担当理事] 加藤 浩（放送大学）、佐伯昭彦（鳴門教育大学）

[幹 事] 谷塚光典（信州大学）

[委 員] 青山和裕（愛知教育大学）、生田 茂（大妻女子大学）、魚住明生（三重大学）、
奥野 光（科学技術館）、久保田善彦（上越教育大学）、竹中真希子（大分大学）、
茅野公穂（信州大学）、寺田光宏（岐阜聖徳学園大学）、中原 淳（東京大学）、
二見尚之（湘南工科大学）、松浦拓也（広島大学）、三崎 隆（信州大学）、
三宅志穂（神戸女学院大学）、宮崎樹夫（信州大学）、森本弘一（奈良教育大学）、
余田義彦（同志社女子大学）

13. 第34回年会ホームページ: <http://www.jsse.jp/jsseam/modules/note3/>

日本科学教育学会 学会通信

編集・印刷 日本科学教育学会広報委員会

担当理事: 東原義訓（信州大）	荻原 彰（三重大）	
委 員: 加藤久恵（兵庫教育大）	二宮裕之（埼玉大）	土田 理（鹿児島大学）
藤岡達也（上越教育大）	渡辺政隆（科学技術振興機構）	
小倉 康（国立教育政策研）	久保田善彦（上越教育大）	
幹 事: 福井智紀（麻布大）	茅野公穂（信州大）	

日本科学教育学会

Japan Society for Science Education

URL: <http://www.jsse.jp>

□事務局 愛知教育大学 理科教育講座 内

□事務支局（入退会・会費・学会誌発送関連） TEL: 075-415-3661 FAX: 075-415-3662
E-mail: jsse@nacos.com

中西印刷（株）学会部 内 〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル
□編集事務局（論文投稿・査読編集） TEL: 075-415-3155 FAX: 075-417-2050

E-mail: jsse-hen@nacos.com
中西印刷（株）学会部 内 〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル

郵便振替口座: 00170-6-85183 日本科学教育学会

銀行口座: みずほ銀行 京都中央支店 普通 2269008 日本科学教育学会